

令和6年度全国学力・学習状況調査結果概要について

平素は本校教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和6年4月中旬に実施しました「全国学力・学習状況調査」結果の概要及び今後の本校の取組等について、下記のとおりお知らせします。

記

1. 実施目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要項」より）

2. 調査対象・実施日 第6学年・令和6年4月18日（木）

3. 調査の内容

（1）教科に関する調査「国語」「算数」

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおり。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

（「令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要項」より）

4. 調査結果の取扱い

- 調査結果の分析・検証を踏まえ、本校の教育指導等の改善に向けて計画的に取り組みます。
- 家庭や地域とも成果・課題を共有し、改善につなげるものとします。
- 調査結果は、中学校区でも共有し、共通で取組める内容について検討・実践していきます。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要であること。

（「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱い及び調査結果の活用について（文部科学省 通知）より」）

5. 調査結果の概要（ダイジェスト版）

本校の「強みのみられる内容」

- ◇どの子も最後まであきらめず、問題を解ききろうとする意欲。
- ◇物語を読み解く際に、人物の性格や考え方を捉える力。
- ◇人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる力。
- ◇日常生活の中で算数の良さが活かしている。
- ◇一人ひとりが仲間を大切にすることができること。

本校の「課題のみられる内容」

- ◆目的を意識して、中心となる語句や文を見付けて、要約する力。
- ◆自分の考えが伝わるように書き方を工夫すること。
- ◆自身の考えをより明確にするための思考ツール等の活用能力。
- ◆複数の情報を整理し、まとめる力。
- ◆家庭での読書量の少なさ、新聞等を読まないことからくる活字にふれる機会。

※上記のダイジェスト版についての詳細は、次の「調査結果の分析・考察・以後の改善点」をお読みください。教科（国語、算数）及び質問調査（アンケート）にそれぞれ分類して記してあります。

6. 調査結果の分析・考察・以後の改善点

（1）教科に関する調査について

「国語」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

◇今年度の国語の問題にて、本校の強みとして顕著に表れたのが下記の3つになります。

- ① 「人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる」という問題において、本校児童の正答率は87%を超え、全国の正答率を15ポイントも上回っています。登場人物の人物像を想像するには、登場人物の行動や会話、様子などを表している叙述等を結び付け、それらを基に性格や考え方を総合して判断することが求められます。これまで本校では、教材分析を通して指導する内容と観点を学年ごとに整理し、「場面」「主題」「変容」等を含む物語文を読み解くための「10の観点」（以下参照）の系統的指導を行ってきました。その結果、物語を読み解く際に、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述をもとに、人物の性格や考え方を捉えることを多くの児童ができるようになってきているといえます。

物語を読み解くための10の観点

「場面・設定・あらすじ」 「登場人物」 「地の文・会話文」 「語り手・視点」
「ファンタジー・基本構成」 「心情・情景」 「題名・おもしろさ」 「変容」
「山場」 「主題」

- ② 今年度は記述式の問題が2問出題され、そのうちの1問が、叙述をもとに想像した人物像や全体像と関わらせながら、自分の考えを記すという内容のものでした。この問題において、本校児童の正答率は75%で、全国平均正答率を上回りました。正答率だけでなく、誤答だった25%の児童の解答についても細かく分析してみると、自分の考えを記すという点においては誤答であるものの、物語から言葉や文を取り上げて書くという点においては正答の条件を満たしている児童が約半数いました。このことから、

多くの児童が、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようになってきているといえます。

- ③ 今年度の国語の分析結果において、最も本校児童の強みとして挙げられるのが昨年と同様の「無解答率」の低さです。全14問のうち、今年度も全国の平均無解答率を1ポイント上回る結果となりました。また、昨年度の本校児童の平均無解答率（4%）と比較しても、今年度はそれをさらに上回る**3.2%**でありました。日々、課題に対して向き合う際に、一人ひとりの児童がしっかり考え、課題をやりきる経験を積み重ねたことが、大きな成果につながったものと考えます。

【課題のみられる問題・内容】

- ◆今年度の国語で全国平均正答率と比べて大きく下回り、本校の課題として挙げるのが下記の2つのものです。

- 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」という問題です。全国の前年度と比べると、本校は10%以上下回る結果になりました。考えをより明確なものにしたり、思考をまとめるためには、情報どうしの関連性や図からみる語句どうしの関係性を理解し使えるようになることが大切になりますが、誤答の傾向をみると、一つの言葉と関係する言葉の意味を考え、線でつなぎ、言葉どうしを関係付けていくことができていない児童がいることが分かりました。

また、日頃から複数の情報を関連付けたりすることや、図などを用いて、語句と語句との関係の表し方を正確に理解したりすることができていない現状もみられました。さらには、自身の考えをより明確にするための思考ツール等に慣れていないことも課題としてみられました。

- 「目的や意図に応じて、事実と感想や意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」という問題です。全国の前年度56.6%と比べ、本校は正答率が40%と大きく下回っています。この結果から、書いてある事実と感想や意見とを区別して書くことや、自分の考えが伝わるように書き表す際に、どのように工夫すべきなのかについて理解しきれていないということが分かりました。

また、複数の情報を整理し、まとめることを苦手とする児童が多い現状も分かりました。正答率だけでなく、誤答の内容についても詳しく分析してみると、書かれていることから必要な情報を見つけ出すことに関しては、できている児童が多くみられました。しかし、まとめる際の基準や、そもそもまとめる目的をとらえることができていないため、大量に書き出され、得られた情報を必要に応じて、まとめることができずにいたようでした。

課題改善に向けての今後の取組み

- 昨年度に引き続き、本年度も無解答率の低さは全国の結果を上回るものであり、ほぼ全員が最後まで問題を解ききることができていました。問題に対し最後まで向き合い、解ききるという力は、これから先も本校の強みとして継承できるようにしていきます。そのためにも通常の評価テスト以外の問題（過去問等も活用）にもチャレンジさせるなど引き続き対応していきます。また、国語だけでなく、各教科の学習の中でも「速読」や「速記」などの必要な知識・技能についても定着を図ることができるように指導していきます。
- まとめる際の基準や目的をとらえることができていない児童や、複数の情報から必要な情報を見つけて出すことが苦手な児童もいるので、国語のみならず、すべての教科において、情報収集力を高めることができるよう、自分がどのような情報が必要なのか、必要な情報を得るために最適な調べ方を一人ひとりが正しく選択できるように指導を進めていきます。その際に、日々の授業の中や、調べ学習などで効果的に思考ツールを活用するなどを行い、適切な情報処理能力や表現力の向上につなげていきたいと考えています。
- 自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、集めた情報をただ書き写すだけでなく、そこから考えられることや、自分なりの解釈・意見についても自分の言葉でまとめるように指導していきます。その際に、事実と意見・感想を混在させないように働きかけることも行っていきます。
- 書くことに対する苦手意識がある児童に対しては、書く活動に入る前に、何を書くのか（内容）、どのような順序で書けばよいのか（構成）、誰に伝えるのか（相手意識）、などを明確にすることを示し、進めていくようにします。

「算数」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

- ◇今年度の算数の問題にて、本校の強みとして顕著に表れたのが立体図形についての理解、速さが一定の場合の道のりと速さの関係の理解、無解答率の低さです。
- ◇算数全 16 問のうち、平均正答率が全国平均を最も上回った(+8.7%)のが「直径の長さ、円周率の関係について理解しているかをみる」問題でした（正答率：本校 80.0%、全国 71.3%）。円柱の展開図について、側面の横の長さが適切なものを選ぶといった内容です。円周の長さは、直径の 3.14 倍になるということを展開図の中でも活用できています。
また、五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書くという記述式の問題についても正答率が全国平均よりも上回っています(+3.0%)（正答率：本校 75.0%、全国 72.0%）。図形を構成する要素（ここでは面）に着目し、五角形の性質について考察できています。また、言葉と必要な数を用いた記述ができていることも評価できる点です。
- ◇速さと時間、道のりに関する問に関しても強みが見られます。3 分間で 180m 歩くことを基に 1800m 歩くのにかかる時間を求める問題については、全国より高い正答率が得られました(+7.5%)（正答率：本校 77.5%、全国 70.0%）。これは、日常的に移動する際の生活上の問題を考察するうえで、速さと時間、道のりの関係が身近なものとして理解できているものと考えられます。日常生活の中で算数の良さが活かしている一例といえるでしょう。

◇国語と同じように、算数でも無解答率の平均値が全国より下回り(本校 1.1%, 全国 3.4%)良い結果でした。

「全 16 問中 11 問で無解答なし」という結果でした。普段の授業やテストに加え、練習問題でも学年全体で、あきらめず問題に取り組み解答することに意識を高めてきた結果として捉えています。

《今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。》

	丹比小	全国
全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	79.1%	78.7%
書く問題で解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがある。	18.6%	16.8%
書く問題は全く解答しなかった。	2.3%	1.6%
その他	0.0%	0.1%
無回答	0.0%	2.8%

【課題のみられる問題・内容】

- ◆問題文から場面を読み取り、立式する問〔1－(1)〕では、正答率が全国平均と比べ大きく下回りました。場面を、イメージや図ではなく、問題文の「少ない」という記述等を演算決定の材料にしてしまっている様子が見られました。
- 図形領域の問題では、角柱の構成要素を答える問〔3－(4)〕の正答率が、全国平均と比べ上回りました。しかし、球の構成要素を使って立方体の体積を求める式を書く問〔3－(3)〕では、正答率が全国平均と比べ大きく下回りました。体積の求積には3つの数の積を使う等基礎的な既習内容は定着していますが、それらを活用する力が充分ではないことが推察されます。
- 除法の中でも、割る数が1よりも小さい小数の問題〔2－(2)、4－(1)〕で、誤答・無解答がめだちました。いずれも「整数÷小数」の問題なのですが、桁数を小さく答えてしまう間違い方が多かったです。割る数が小さくなるにつれ答えの数は大きくなることは、生活の中でも実感しやすいのです。が、小数で割るという生活場面の少なさが原因の1つと考えられます。また、元の「割られる数」よりも「答えの数」が小さくなるという割り算のイメージが強く、桁がちがっていても気づきにくいと推察します。具体的な場面を文章からイメージできないことで、結果がおかしいと気付けなかったり、立式から間違えてしまったりする児童が多くみられます。

課題改善に向けての今後の取り組み

- 記述式の問題において、全国平均より3ポイント上回ったものがあったという結果から、子どもたちが学習用語を適切に使うことで、自身の考えを説明できているということが読み取れます。これは、基本的な授業のスタイル（『ねらい』『見通し』『自力解決』『交流』『ふりかえり』など）が全教室で大切にされていることに起因すると考えます。『ねらい』に沿って、既習事項を使った『見通し』をたて、自分で課題に向き合う『自力解決』後、『交流』で多様な考えに出会い、『ふりかえり』でめあてに沿った学習内容を自分の言葉で再表出します。このような日々の学習活動の中で、自分の考えを持ち、表現する経験を今後も重ねていきます。そして、「解ける」「できる」の知識、技能面だけではなく、思考、判断、表現の面でも課題に向き合えるような授業展開を意識して学習を進めていきます。
- 算数科の無解答率の平均値が、全国より2.3ポイント下回った結果より、諦めずに最後まで課題に向き合った子どもたちの姿勢が読み取れます。落ち着いて、ねばり強く学習に取り組む姿勢は、教科学習の授業時間だけではなく、毎朝の読書時間にも育まれていると考えます。学習に向かう基本的な力を育む習慣を、今後も継続していきます。
- 問題文の「少ない」という表現から、演算決定をひき算と誤答した問題は、平均値が全国より17.1ポイント下回っていました。この結果より、子どもたちは、文章問題の場面理解や演算決定を、問題文の文章でのみ判断していると推察されます。
そこで、場面理解のツールとしての「絵」や「表」や「図」の理解と使用を積極的に学習活動に取り入れ、それらの利便性や拡張のしやすさを経験させていきます。
- 図形の定義や、構成要素を問う基本的な問題は正答率が高かったのに比べ、それらを活用して答える問題になると、全国平均より16.5ポイント下回る結果となりました。この結果から、既習事項を組み合わせた複合問題により多く出合わせ、既習内容を統合する経験を重ねることで、既習事項を用いた解法を導き出すことに慣れ親しめるようにしていきます。また、十分な個別の対応が必要な児童への抽出指導をより充実させ、既習事項の定着を進めていきます。

（2）質問紙調査について

※児童質問紙調査（アンケート）は、全63問があり、本年度の主な調査項目は、以下のとおりです。

「児童の生活状況」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等」「地域や社会に関わる活動の状況」「ICTを活用した学習状況」「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」「学習に対する興味・関心」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

◇先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

（当てはまる・・・本校：60.5%，全国：48.8%）

◇先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

（肯定的意見・・・本校：88.3%，全国：87.9%）

◇いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

（当てはまる・・・本校：86.0%，全国：79.5%）

【課題のみられる問題・内容】

- ◆携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。
(「守れていない」と答えた割合 本校:18.6%, 全国:9.8%)
- ◆あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)
(「10冊以下」の割合・・・本校:48.8%、全国:14.6%)
- ◆新聞を読んでいますか。
(ほぼ読んでいる・・・本校:0.0%、全国:3.7%)
(ほとんど+全く読まない・・・本校:90.7%、全国76.0%)
- ◆人が困っているときは、進んで助けていますか。(肯定的意見・・・本校:73.5%、全国:92.7%)

課題改善に向けての今後の取組み

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の回答や「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の回答に肯定的意見が多いことは、「全教職員で丹比っ子をみていこう」、「困り感をもつ児童をみんなで支援していこう」という強い想いが児童にも伝わっている成果だといえます。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の回答に当てはまると答えた児童が86%であるにもかかわらず、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の回答の肯定的意見が全国から見ても大きく下回っているところに課題があると考えられます。「先生から児童へ」でとどまらず、児童同士のつながりを深め、一人ひとりの自己肯定感を高めていくために、児童がお互いによりよいところを認め合う取組みや、支え合う学級づくりを行っていきます。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の回答を見てみると、家の人との約束がない児童が多くいます。携帯電話・スマートフォンやコンピュータの所持率は高いにもかかわらず、使い方や時間制限、プライバシーの管理などの約束がないことは多くのトラブルにつながっている可能性が高いといえます。保護者との懇談の際には、情報モラル新聞を配布し啓発に努めてはいますが、さらに学級懇談会で約束事を確認したり、情報モラルに関する講演会を実施したりするなど啓発活動に力を入れていきたいと考えます。
- 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」の回答が「10冊以下」という児童の割合が5割近くであったこと、また「新聞を読んでいますか」の回答が「ほとんど、または、全く読まない」という児童が9割以上であったことから、活字離れの深刻化がうかがえます。本校の研究テーマである「考える力・表現する力を育てる」ためには、読書や新聞を通して多くの活字にふれ語彙力を高めていくことは重要です。この現状を改善していくために、本校では今年度は「ホンツナ(本でつながる)」という新たな取組みを行っています。児童がより本を身近に感じることができるよう本紹介動画の作成や、保護者や地域の方を招いての読み聞かせなどを通して、児童の読書意欲を増進させ、より多くの本と出会うことで語彙力、表現力を向上させていきます。